

ま え が き

校長 仲矢 明孝

本校では、「知的障害教育における『指導と評価の一体化』に基づいた個が生きる授業づくりー学習評価に焦点を当ててー」の研究主題の下、3年計画で共同研究に取り組んできました。本研究の前は「主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくり」の主題による研究でした。その研究への取組により、子どもたちの主体的で対話的な学びの姿、深い学びの姿の捉え方と、その学びを引き出す授業の在り方をまとめるとともに、その内容を本校教員全員で共有し実践できたことは、研究の大きな成果と考えています。一方で、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善によって、子どもたちが各教科等における資質・能力を確実に身に付けたかどうかについて、特に各教科等を合わせた指導においては、その吟味が必ずしも十分ではなく、学習評価の在り方が課題として残されました。したがって、本研究は、前研究の延長線上にあるものであり、本校教員の強い課題意識から始まったものと言えます。なお、本研究において本校が目指している授業は、集団の中で「個が生きる授業」(2000, 本校研究紀要第13号)、即ち、「子どもたち一人一人が周囲の人と関わり合い、課題解決に向けて思考・判断しながら主体的に取り組む、新たな気付きを得ることができるような授業」です。子どもたちが友達と一緒に、わくわくしながら、また、本気で学習活動に取り組む中で、必然的に教科の見方・考え方を働かせ、自ら学びを深めていくような授業づくりが重要だと考えています。

さて、学習指導要領の改訂に伴い、学習評価に関わる重要な視点、即ち、学習指導と学習評価は学校の教育活動の根幹であり、カリキュラム・マネジメントの中核的な役割を担っていること、そして、子どもたちの自立と社会参加に必要な各教科等における資質・能力を確実に育成するには、指導と評価の一体化が重要となること等が示されました。日々の教育実践の中で、私たちは指導の結果を評価して指導の課題に気付き、その課題を改善して指導し、再度その指導を評価していきます。指導と評価は別物ではなく、まさに一体化したものと言えます。また、本年度、本県内の全特別支援学校において、新学習指導要領に対応した学習評価を確実に実施すること等を目的とし、授業づくりと学習評価に関する実践研究が行われています。このように、「授業づくりと学習評価」は、今取り組むべき重要な課題であり、意義深い研究と考えています。

私たち教師が、日々充実感を味わうことができるのは、子どもたちや同僚と共に取り組む、創造的な作業とも言える授業づくり、中でも授業改善への取り組みであろうと思います。授業改善によって、教師は自己課題に気付き、自らの力量、授業の質を高め、子どもたちは学びを深めていきます。その授業改善に不可欠となるのが授業の結果、即ち、子どもたちが授業の中で見せる姿である学習評価です。また、子どもたちは自らの学びを振り返ることによって課題に気付き、自らめあてを自覚し、意欲的に次の学びに向かいます。このように、授業づくりにおける学習評価は極めて重要な視点と言えます。授業は、子どもたちの自立と社会参加を目指して日々行われているのであり、授業の結果、子どもたちは何ができるようになったのか、どのような資質・能力が育成されたのかを確かめ、示すことが求められています。

3年間の本研究への取組の過程は、子どもたちからの学び、子どもたちと教師との学び合い、さらには教師相互の学び合いの過程そのものであったと思います。本研究でまとめた研究の成果等は、すべて子どもたちの実際の姿の裏付けを有するものです。

今後、本実践研究をさらに進展させていきたいと思っておりますので、皆様方からの忌憚のないご意見、ご指摘を頂きますようお願い申し上げます。